



## 2020年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年5月11日

上場会社名 株式会社新日本科学 上場取引所 東  
 コード番号 2395 URL <https://www.snbl.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 永田 良一 (TEL) 03(5565)6216  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役CFO (氏名) 二反田 真二 配当支払開始予定日 2020年6月23日  
 定時株主総会開催予定日 2020年6月22日  
 有価証券報告書提出予定日 2020年6月23日  
 決算補足説明資料作成の有無: 無  
 決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期の連結業績（2019年4月1日～2020年3月31日）

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期	14,561	△7.0	2,228	168.5	3,121	93.4	2,550	30.8
2019年3月期	15,658	△5.7	829	—	1,613	—	1,950	—

(注) 包括利益 2020年3月期 △11,900百万円(—%) 2019年3月期 2,232百万円(△44.2%)

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後1株当たり当期純利益		自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円	銭	円	銭	%	%	%
2020年3月期	61	25	—	—	11.4	6.7	15.3
2019年3月期	46	84	—	—	7.1	2.9	5.3

(参考) 持分法投資損益 2020年3月期 888百万円 2019年3月期 361百万円

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭
2020年3月期	39,002	16,381	16,381	41.8	391	23	
2019年3月期	54,329	28,477	28,477	52.3	682	38	

(参考) 自己資本 2020年3月期 16,288百万円 2019年3月期 28,408百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2020年3月期	3,018	△1,455	△1,449	5,243
2019年3月期	2,892	434	△3,501	5,134

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額(合計)	配当性向(連結)	純資産配当率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
2019年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2020年3月期	—	0 00	—	3 00	3 00	124	6.4	0.5
2021年3月期(予想)	—	0 00	—	5 00	5 00	208	8.2	0.9

### 3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	6,911	8.2	700	△35.1	900	△28.5	700	△20.2	16	81
通期	14,808	1.7	1,800	△19.2	2,200	△29.5	1,800	△29.4	43	23

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2020年3月期	41,632,400株	2019年3月期	41,632,400株
2020年3月期	358株	2019年3月期	308株
2020年3月期	41,632,087株	2019年3月期	41,632,092株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定等については添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	3
(4) 今後の見通し .....	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 連結貸借対照表 .....	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	7
連結損益計算書 .....	7
連結包括利益計算書 .....	9
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	12
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	14
(継続企業の前提に関する注記) .....	14
(セグメント情報) .....	14
(1株当たり情報) .....	16
(重要な後発事象) .....	16
(開示の省略) .....	16

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

医薬品業界は、国内外において研究開発のスピードアップと効率化を目指したアウトソーシングが引き続き堅調です。このようなトレンドを受け、弊社は顧客から選ばれ続けるパートナーとなるべく、顧客ニーズを満たす迅速な対応とサービスの向上ならびに継続的な質の向上に注力しております。

こうした状況の中、当連結会計年度における売上高は、米国前臨床事業及びSMO事業を譲渡したことにより14,561百万円と前連結会計年度に比べて1,097百万円(7.0%)の減少となりましたが、事業譲渡による影響を除くと2,623百万円(22.0%)の増加となっております。

営業利益は2,228百万円と前連結会計年度に比べて1,398百万円(168.5%)の増加、経常利益は3,121百万円と前連結会計年度に比べて1,507百万円(93.4%)の増加となり、親会社株主に帰属する当期純利益は2,550百万円と前連結会計年度に比べて600百万円(30.8%)の増加となりました。

当社グループのセグメント別の経営成績は次のとおりであります。

#### ① 前臨床事業

顧客満足度をさらに高めることに注力し、信頼と品質で選ばれる受託研究機関(CRO)を目指すとともに、再生医療開発支援等、新しい技術分野におけるサービスも強化しております。また、大手製薬企業からの包括的受託契約も獲得し、2019年4月から業務を開始しております。豊富な受注残高を背景に稼働状況は堅調であり、内部業務プロセスのイノベーションと経費節減を合わせ、利益率が改善しております。

そうした中で、売上高は、米国前臨床事業を譲渡したことにより13,119百万円と前連結会計年度に比べて627百万円(4.6%)の減少となりましたが、営業利益は、2,870百万円と前連結会計年度に比べて1,483百万円(107.1%)の増加となりました。

#### ② 臨床事業

SMO事業譲渡によりグループ内の業務の集約を図る一方、臨床事業におけるPPD社との合弁会社、株式会社新日本科学PPD(持分法適用会社)では、グローバル治験(国際共同治験)に対応すべく盤石な組織体制の構築を順調に進めております。

そうした中で、売上高は、703百万円と前連結会計年度に比べて465百万円(39.8%)の減少となり、営業利益は67百万円と前連結会計年度に比べて10百万円(19.3%)の増加となりました。なお、株式会社新日本科学PPDの利益は、経常利益として計上しております。

#### ③ トランスレーショナル リサーチ事業(TR事業)

経鼻投与基盤技術(Nasal Delivery System: NDS)を応用した薬物吸収フィージビリティ試験や製剤研究結果に基づいて、複数の候補化合物の新規事業化を進めております。併せて、標的鼻内部位への送達を的確に実現するため、新規デバイスを開発しました。市場予測のもとに、製剤開発をおこない、NDSを用いた薬物吸収フィージビリティ試験により候補化合物を絞り込み、最終製剤を選定しました。また、NDSを応用した Satsuma Pharmaceuticals, Inc. (カリフォルニア州; Satsuma社)は、2019年9月に米国ナスダック市場上場を果たし、現在第Ⅲ相臨床試験が順調に進行中です。

一方、鼻から脳へと薬物を送達させる技術(Nose-to-Brain送達技術)が進展中です。本技術研究では、薬物を能動的に中枢神経細胞へ移行させるメカニズムを解析しております。鼻腔内標的である嗅部への送達、そこから脳内への送達、さらに脳内分布や薬効判定などをいかに安全に効率的に行うかについて、薬物の脳移行イメージング解析などを駆使しながら鋭意進めております。併せて大手製薬企業との共同研究も順調に進んでおります。

そうした中で、売上高は1百万円と前連結会計年度に比べて10百万円(89.8%)の減少となり、営業損失は503百万円(前連結会計年度:営業損失299百万円)となりました。

④ メディポリス事業

環境に配慮する社会的事業として地熱発電事業、自然と健康をテーマにした指宿ベイヒルズHOTEL&SPAの運営などを行っております。発電事業は、再生可能エネルギーの固定価格買取制度を利用しており、地球温暖化防止、純国産エネルギーの創出推進という我が国のエネルギー政策をうけて、1,500kw級のバイナリー型地熱発電所を稼働しております。ホテル事業は、丘の上から桜島と錦江湾、その背後の大隅半島を一望できる素晴らしい眺望と豊富な温泉を利用した露天風呂や砂蒸し風呂、森の中の個室風呂などの各種スパ施設のほか、鉄板焼き“道（みち）”やフレンチレストラン“セレスト”が好評です。

そうした中で、売上高1,002百万円と前連結会計年度に比べて39百万円（4.1%）の増加となり、営業利益は2百万円（前連結会計年度：営業損失239百万円）となりました。

（2）当期の財政状態の概況

当連結会計年度における前連結会計年度末からの財政状態の変動は、以下のとおりとなりました。

当連結会計年度末の総資産は、固定資産の投資有価証券の時価評価額が減少したことなどにより前連結会計年度末に比べ15,326百万円（28.2%）減少し、39,002百万円となりました。流動資産は、前連結会計年度末に比べ743百万円（6.4%）増加して12,409百万円となりました。固定資産は、前連結会計年度末に比べ16,070百万円（37.7%）減少して26,592百万円となりました。

負債は、前連結会計年度末に比べ3,230百万円（12.5%）減少し、22,620百万円となりました。流動負債は、短期借入金が減少したことなどにより前連結会計年度末に比べ4,816百万円（27.1%）減少して12,951百万円となりました。固定負債は、繰延税金負債が減少し、長期借入金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ1,585百万円（19.6%）増加して9,669百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する当期純利益を2,550百万円計上し、上述のとおり投資有価証券の時価評価額が減少したことでその他有価証券評価差額金が14,424百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ12,095百万円（42.5%）減少し、16,381百万円となりました。

（3）当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は前連結会計年度末に比べて108百万円（2.1%）増加して、5,243百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は3,018百万円と前連結会計年度に比べて125百万円（4.3%）の増加となりました。

主な内訳は、税金等調整前当期純利益3,062百万円、減価償却費1,229百万円、持分法投資利益888百万円、売上債権の増加額619百万円及びたな卸資産の増加額445百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は1,455百万円（前連結会計年度：434百万円の獲得）となりました。

主な内訳は、有形固定資産の取得による支出1,147百万円、投資有価証券の取得による支出790百万円及び貸付金の回収による収入578百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は1,449百万円と前連結会計年度に比べて2,052百万円（58.6%）の減少となりました。

主な内訳は、短期借入金の減少額5,920百万円、長期借入れによる収入9,060百万円及び長期借入金の返済による支出4,166百万円であります。

#### (4) 今後の見通し

前臨床事業は、中長期的な視点で国内外の顧客からの要望に対して、確実に応えられる体制構築に取り組んでおります。再生医療分野では最新装置を導入しており、他施設では実施困難な案件を受託できております。また、2019年4月には、大手製薬企業から創薬プロセスの一部業務の包括契約の受託に成功しました。今後も効率的かつ効果的に各種実験を適切なタイミングで行えるオンリーワンの事業価値を継続して提供してまいります。

海外顧客からの引き合いが活発に推移しており、グローバルな大手製薬企業から継続的な受注に成功しております。この20年間、米国前臨床事業運営で培ったノウハウと米国での勤務経験を積んだ人材資産を活用して、海外顧客からの受託拡大に注力しております。

臨床事業は、PPD社との合弁会社である株式会社新日本科学PPDを通じ、国内におけるグローバル治験を主体に受託サービスの拡充を積極的に展開しております。

TR事業は、当社独自の経鼻投与基盤技術であるNDSを用いた既存薬剤の投与経路変更による医薬品開発など、パートナー企業とのアライアンス構築を継続して進めており、特に国外の製薬企業との、複数の候補薬剤ライセンスアウト・共同開発交渉を継続します。また、経鼻偏頭痛薬の第Ⅲ相臨床試験を順調に進めているSatsuma社に対し、さらなる知財のライセンス供与元として技術支援をしております。

その他自社開発品については、至適製剤化を進め、早期に臨床開発に入れるよう準備をおこないます。さらに、それに続くポートフォリオとして、本年初頭より猛威をふるっている新型コロナウイルス感染症の予防・治療薬に関してもNDS技術の応用ができないか、感染状況の追跡評価等を進めてまいります。

一方、NDSの新たな応用領域として、Nose-to-Brain送達技術の研究開発を加速いたします。中枢疾患におけるアンメットメディカルニーズは非常に高く、その治療薬開発は製薬企業における重点注力領域であります。血液-脳関門(Blood Brain Barrier)の存在により、静脈注射でも脳内に送達できない薬物について、Nose-to-Brain送達技術の応用が期待されています。現在、社内研究の継続に加えて、複数の大手製薬企業と共同研究契約やフィージビリティ試験契約交渉を進めてまいります。

メディポリス事業は、従来の発電事業に加えて、地熱資源量の把握のための調査事業費補助金制度等を利用した新規発電の可能性を検討しております。また、シラスウナギの人工種苗生産は、今後の事業化に向けた展開の一環として、新たに稼働した沖永良部島(鹿児島県和泊町)での研究を本格化させてまいります。

その他、メディポリス指宿の資源を最大限活用すべく、様々な取組みを検討してまいります。

#### **連結業績予想**

2020年度通期の連結業績見通しは、売上高14,808百万円、営業利益1,800百万円、経常利益2,200百万円、親会社株主に帰属する当期純利益1,800百万円を見込んでおります。

上記の見通しの前提としている為替レートは、1米ドル=109円であります。

なお、現時点において、新型コロナウイルス感染症の当社業績への影響は軽微と考えております。業績予想の修正が必要となった場合には速やかに開示します。

#### 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループにおいては、連結財務諸表の期間比較可能性に考慮して当面は日本基準を採用することとしております。IFRS(国際財務報告基準)適用につきましては、国内外の諸情勢を踏まえつつ適切に対処していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,141,517	5,249,810
受取手形及び売掛金	1,986,807	2,604,688
たな卸資産	3,599,998	4,031,729
その他	1,011,249	593,842
貸倒引当金	△73,145	△70,170
流動資産合計	11,666,428	12,409,899
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	18,752,727	18,773,727
減価償却累計額	△10,540,080	△11,032,862
建物及び構築物(純額)	8,212,646	7,740,864
機械装置及び運搬具	1,913,888	1,963,854
減価償却累計額	△1,152,044	△1,228,611
機械装置及び運搬具(純額)	761,843	735,243
工具、器具及び備品	6,260,135	6,341,356
減価償却累計額	△5,392,014	△5,535,878
工具、器具及び備品(純額)	868,121	805,478
土地	2,804,820	2,793,704
リース資産	1,998,411	1,359,673
減価償却累計額	△1,183,727	△590,365
リース資産(純額)	814,684	769,307
建設仮勘定	224,533	855,136
有形固定資産合計	13,686,650	13,699,735
無形固定資産		
投資その他の資産	92,529	194,361
投資有価証券	27,618,673	12,008,319
長期貸付金	1,033,615	455,303
繰延税金資産	11,413	1,829
その他	221,818	234,912
貸倒引当金	△2,108	△2,066
投資その他の資産合計	28,883,413	12,698,297
固定資産合計	42,662,593	26,592,394
資産合計	54,329,021	39,002,293

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	36,572	119,257
短期借入金	11,348,192	5,998,285
未払法人税等	69,277	502,271
前受金	4,204,392	4,282,679
事業整理損失引当金	16,465	15,521
その他	2,092,683	2,033,146
流動負債合計	17,767,584	12,951,162
固定負債		
長期借入金	3,894,755	8,217,304
リース債務	708,490	707,466
繰延税金負債	3,452,736	726,098
その他	27,635	18,414
固定負債合計	8,083,617	9,669,283
負債合計	25,851,202	22,620,445
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	9,679,070	9,679,070
資本剰余金	10,362,434	5,196,804
利益剰余金	△10,082,616	△2,489,003
自己株式	△170	△197
株主資本合計	9,958,718	12,386,673
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,519,614	6,094,751
為替換算調整勘定	△2,069,340	△2,193,352
その他の包括利益累計額合計	18,450,274	3,901,398
非支配株主持分	68,826	93,775
純資産合計	28,477,819	16,381,848
負債純資産合計	54,329,021	39,002,293



(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	15,658,678	14,561,084
売上原価	9,480,910	6,945,351
売上総利益	6,177,767	7,615,732
販売費及び一般管理費		
役員報酬	274,183	297,812
給料及び手当	1,803,008	1,541,564
退職給付費用	22,135	21,447
福利厚生費	298,591	492,842
保険料	29,809	23,913
消耗品費	85,878	85,943
賃借料	105,146	102,333
減価償却費	213,442	147,958
旅費交通・車両費	205,915	183,261
支払手数料	631,829	566,202
飼育動物維持管理費	533,739	650,826
研究開発費	339,818	400,853
貸倒引当金繰入額	4,137	131
その他	800,336	872,389
販売費及び一般管理費合計	5,347,972	5,387,480
営業利益	829,795	2,228,251
営業外収益		
受取利息	18,510	9,270
為替差益	754,203	—
持分法による投資利益	361,586	888,157
受取保険金	—	344,695
その他	265,765	140,478
営業外収益合計	1,400,065	1,382,600
営業外費用		
支払利息	377,796	235,012
為替差損	—	233,715
貸倒引当金繰入額	70,095	—
その他	168,314	20,819
営業外費用合計	616,207	489,547
経常利益	1,613,653	3,121,305

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
特別利益		
固定資産売却益	4,788	1,102
関係会社株式売却益	745,453	—
特別利益合計	750,242	1,102
特別損失		
固定資産除却損	170,386	9,739
減損損失	290,912	49,697
投資有価証券評価損	19,658	—
関係会社株式売却損	232,236	—
その他	—	303
特別損失合計	713,194	59,740
税金等調整前当期純利益	1,650,701	3,062,667
法人税、住民税及び事業税	50,967	465,825
法人税等調整額	△359,055	△51,284
法人税等合計	△308,088	414,541
当期純利益	1,958,789	2,648,126
非支配株主に帰属する当期純利益	8,482	97,746
親会社株主に帰属する当期純利益	1,950,307	2,550,379

(連結包括利益計算書)

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
当期純利益	1,958,789	2,648,126
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	729,392	△14,424,863
為替換算調整勘定	△435,961	△123,822
持分法適用会社に対する持分相当額	△19,230	—
その他の包括利益合計	274,200	△14,548,685
包括利益	2,232,990	△11,900,559
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,224,266	△11,998,496
非支配株主に係る包括利益	8,724	97,936

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	9,679,070	10,362,434	△12,058,970	△170	7,982,364
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純利益			1,950,307		1,950,307
持分法の適用範囲の変動			26,046		26,046
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	1,976,353	—	1,976,353
当期末残高	9,679,070	10,362,434	△10,082,616	△170	9,958,718

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	19,790,222	△1,613,907	18,176,314	56,977	26,215,656
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純利益					1,950,307
持分法の適用範囲の変動					26,046
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	729,392	△455,433	273,959	11,849	285,808
当期変動額合計	729,392	△455,433	273,959	11,849	2,262,162
当期末残高	20,519,614	△2,069,340	18,450,274	68,826	28,477,819

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	9,679,070	10,362,434	△10,082,616	△170	9,958,718
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純利益			2,550,379		2,550,379
欠損填補		△5,043,233	5,043,233		—
剰余金(その他資本剰余金)の配当		△124,896			△124,896
自己株式の取得				△27	△27
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		2,500			2,500
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	△5,165,629	7,593,612	△27	2,427,955
当期末残高	9,679,070	5,196,804	△2,489,003	△197	12,386,673

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	20,519,614	△2,069,340	18,450,274	68,826	28,477,819
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純利益					2,550,379
欠損填補					—
剰余金(その他資本剰余金)の配当					△124,896
自己株式の取得					△27
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					2,500
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△14,424,863	△124,011	△14,548,875	24,948	△14,523,926
当期変動額合計	△14,424,863	△124,011	△14,548,875	24,948	△12,095,970
当期末残高	6,094,751	△2,193,352	3,901,398	93,775	16,381,848

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	1,650,701	3,062,667
減価償却費	1,361,610	1,229,150
減損損失	290,912	49,697
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	57,251	△1,613
受取利息及び受取配当金	△18,510	△9,270
支払利息	377,796	235,012
為替差損益 (△は益)	△743,006	224,329
固定資産売却損益 (△は益)	△4,788	△1,102
固定資産除却損	170,386	9,739
投資有価証券評価損益 (△は益)	19,658	—
関係会社株式売却損益 (△は益)	△513,217	—
持分法による投資損益 (△は益)	△361,586	△888,157
売上債権の増減額 (△は増加)	△149,151	△619,043
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△424,482	△445,312
前受金の増減額 (△は減少)	1,674,084	75,977
仕入債務の増減額 (△は減少)	119,178	82,693
その他	△142,573	376,610
小計	3,364,262	3,381,380
利息及び配当金の受取額	18,929	7,410
利息の支払額	△338,148	△287,568
法人税等の支払額	△152,387	△82,932
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,892,655	3,018,289
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△8,985	—
定期預金の払戻による収入	20,316	—
有形固定資産の取得による支出	△1,067,898	△1,147,399
有形固定資産の売却による収入	4,788	1,102
無形固定資産の取得による支出	△31,876	△82,741
投資有価証券の取得による支出	—	△790,362
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	8,056	—
関係会社株式の取得による支出	—	△4,600
関係会社株式の売却による収入	685,265	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	807,351	—
貸付金の回収による収入	15,170	578,302
その他	2,574	△9,435
投資活動によるキャッシュ・フロー	434,763	△1,455,135

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	977,600	△5,920,000
長期借入れによる収入	510,000	9,060,000
長期借入金の返済による支出	△4,707,549	△4,166,857
非支配株主からの払込みによる収入	—	2,500
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△281,671	△228,335
配当金の支払額	—	△123,577
非支配株主への配当金の支払額	—	△73,257
その他	—	△27
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,501,621	△1,449,556
現金及び現金同等物に係る換算差額	14,859	△5,075
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△159,341	108,523
現金及び現金同等物の期首残高	5,294,076	5,134,734
現金及び現金同等物の期末残高	5,134,734	5,243,258

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高経営責任者(CEO)が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、医薬品開発のプロセス別に事業単位を構成しており、「前臨床事業」、「臨床事業」、「トランスレーショナル リサーチ事業」及び「メディボリス事業」の4つを報告セグメントとしております。

「前臨床事業」は、製薬企業等の委託者により創製された被験物質について、実験動物や細胞・細菌を用いてその有効性と安全性を確認する事業であります。「臨床事業」は、被験物質のヒトでの有効性と安全性を確認する事業であります。「トランスレーショナル リサーチ事業」は、経鼻投与製剤等の開発及び大学、バイオベンチャー、研究機関などにおける基礎研究から派生してくる有望なシーズ技術や新規物質を発掘して、医薬品などの評価・承認に必要な前臨床試験や臨床試験を行いながら、基礎理論を臨床の場で実証することにより、付加価値を高めて事業化する事業であります。「メディボリス事業」は、宿泊施設運営及び地熱発電事業であります。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	前臨床 事業	臨床事業	トランス レーショナル リサーチ事業	メディボリス 事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	13,717,246	981,292	11,535	931,270	15,641,345	17,332	15,658,678	-	15,658,678
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	30,330	186,894	200	31,612	249,036	91,060	340,097	△340,097	-
計	13,747,576	1,168,186	11,735	962,883	15,890,381	108,393	15,998,775	△340,097	15,658,678
セグメント利益 又は損失(△)	1,386,047	56,891	△299,312	△239,341	904,285	△33,808	870,476	△40,681	829,795
セグメント資産	17,055,150	850,244	5,456	1,546,964	19,457,815	846,274	20,304,090	34,024,931	54,329,021
その他の項目									
減価償却費	1,217,867	16,766	-	110,907	1,345,542	16,067	1,361,610	-	1,361,610
持分法投資利益 又は損失(△)	-	391,194	-	-	391,194	△29,608	361,586	-	361,586
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	1,257,894	74,818	26,150	252,987	1,611,850	357	1,612,207	-	1,612,207

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△40,681千円は、セグメント間取引消去54,426千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△95,108千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。セグメント資産の調整額34,024,931千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に余資運用資金(現金及び預金等)、長期投資資金(投資有価証券等)であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。



当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	前臨床 事業	臨床事業	トランス レーショナル リサーチ事業	メディポリス 事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	13,085,429	453,977	209	964,483	14,504,100	56,984	14,561,084	-	14,561,084
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	34,431	249,192	992	37,735	322,351	93,996	416,347	△416,347	-
計	13,119,860	703,169	1,202	1,002,219	14,826,451	150,980	14,977,431	△416,347	14,561,084
セグメント利益 又は損失(△)	2,870,042	67,886	△503,355	2,568	2,437,142	△83,886	2,353,255	△125,003	2,228,251
セグメント資産	16,392,996	870,891	7,065	2,253,504	19,524,458	1,529,924	21,054,382	17,947,911	39,002,293
その他の項目									
減価償却費	986,203	35,956	-	103,042	1,125,202	103,948	1,229,150	-	1,229,150
持分法投資利益 又は損失(△)	-	888,413	-	-	888,413	△256	888,157	-	888,157
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	492,245	115,907	5,964	715,666	1,329,784	184,845	1,514,629	-	1,514,629

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△125,003千円は、セグメント間取引消去59,314千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△184,318千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。セグメント資産の調整額17,947,911千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に余資運用資金(現金及び預金等)、長期投資資金(投資有価証券等)であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	682円38銭	391円23銭
1株当たり当期純利益	46円84銭	61円25銭

(注) 1. 前連結会計年度及び当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	28,477,819	16,381,848
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	28,408,992	16,288,072
差額の内訳(千円)		
非支配株主持分	68,826	93,775
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(千株)	41,632	41,632

3. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,950,307	2,550,379
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	1,950,307	2,550,379
普通株式の期中平均株式数(千株)	41,632	41,632

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## (開示の省略)

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記事項、リース取引、金融商品、有価証券、デリバティブ取引、退職給付、ストック・オプション等、税効果会計、企業結合等、資産除去債務、賃貸等不動産、関連当事者情報、セグメント情報等(関連情報)に関する注記事項並びに個別財務諸表については、決算短信における開示の必要性が大きくないと考えられるため開示を省略します。